

Ⅱ 調査結果

2. 1 暮らしについて

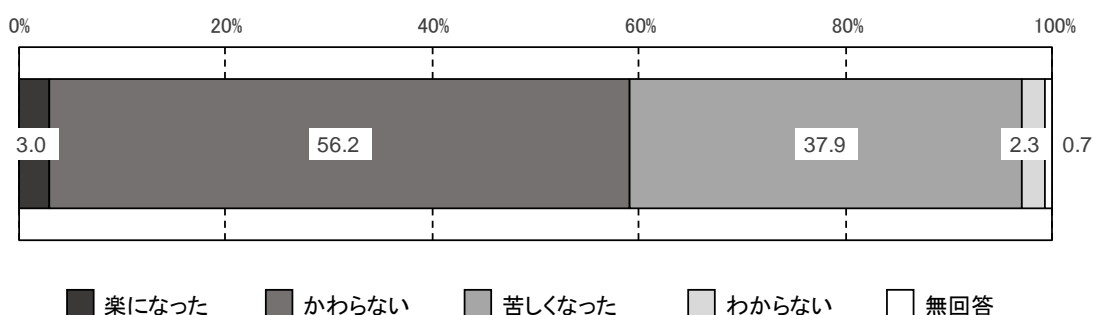
問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き（家計など）は、去年の今頃と比べてどうですか。
（1つだけ）

全体（図 1-1）で見ると、「かわらない」が 56.2%と最も高く、次いで「苦しくなった」（37.9%）、「楽になった」（3.0%）の順となっている。

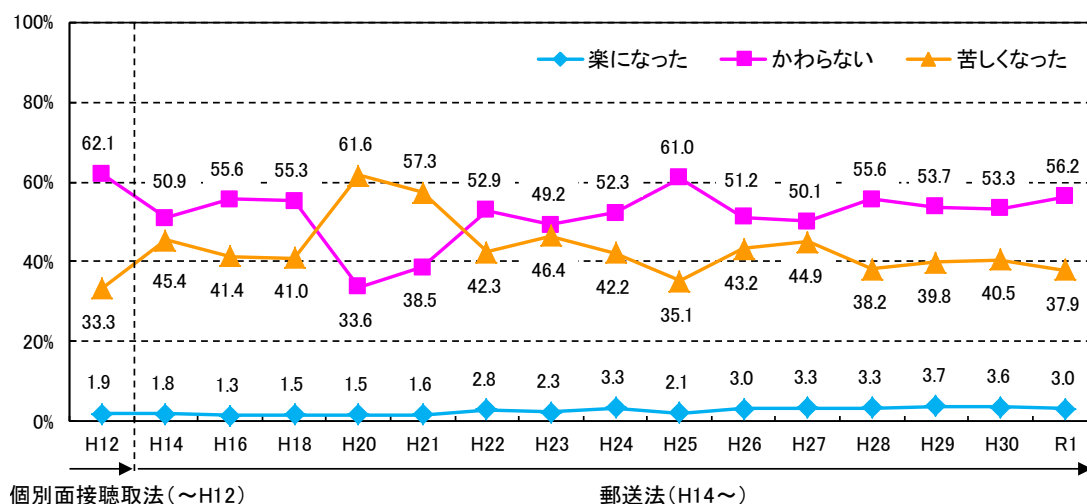
図 1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n = 1,488)



経年変化（図 1-2）で見ると、平成 18 年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成 20 年から平成 21 年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成 22 年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。令和元年は、平成 30 年より「楽になった」が 0.6 ポイント低くなっており、「苦しくなった」が 2.6 ポイント低くなっている。

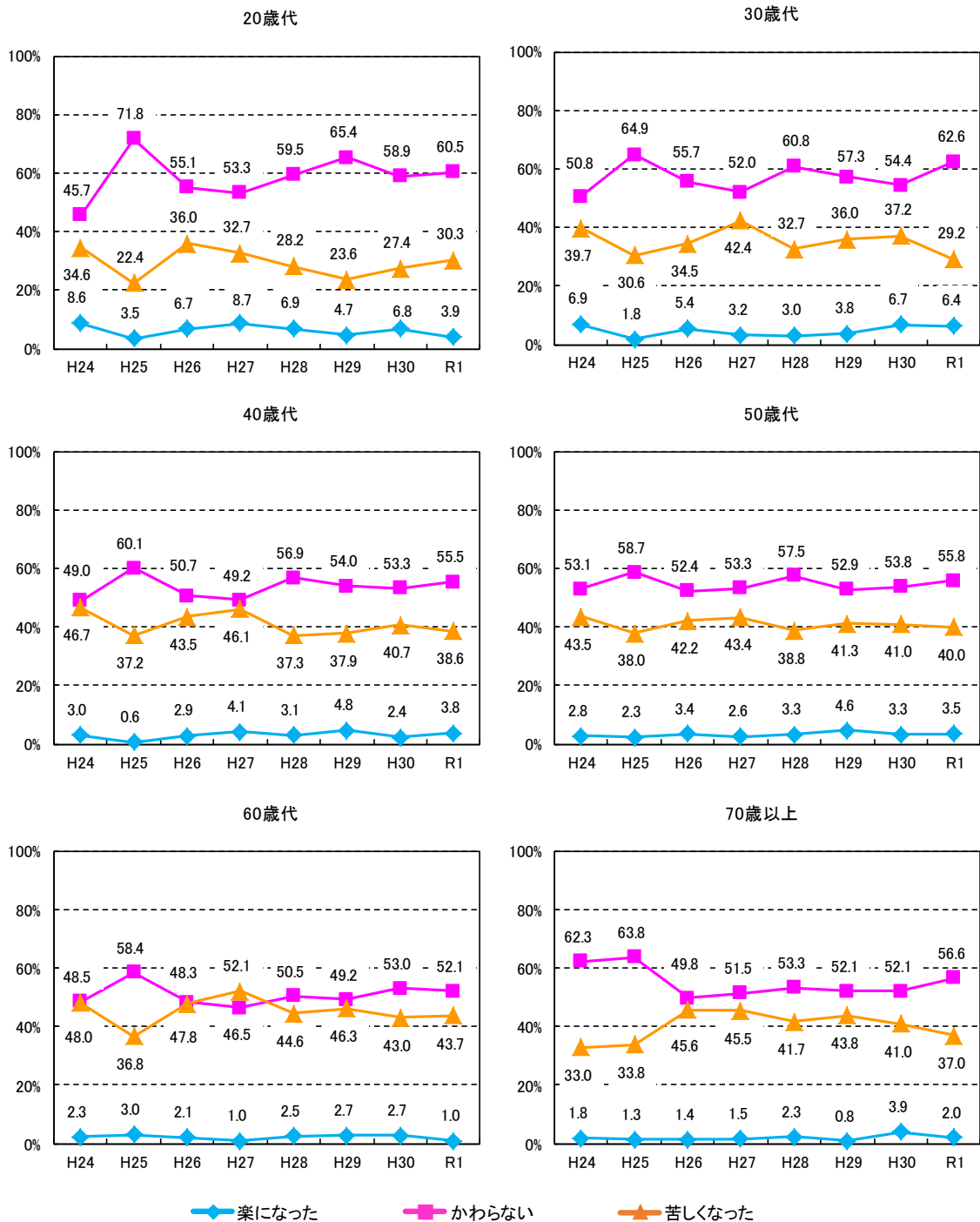
図 1-2 【経年変化】暮らしの前年比較



※ 調査方法:平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

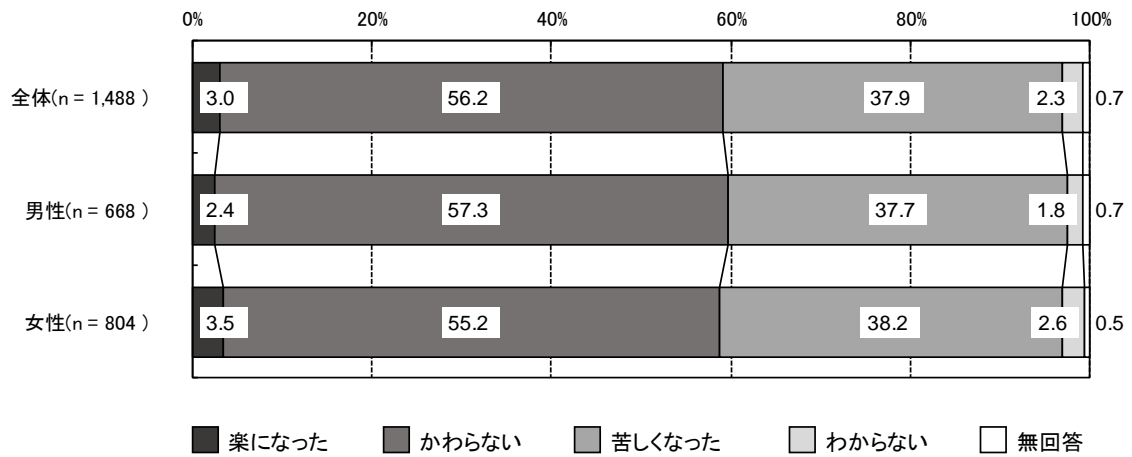
年代別の経年変化（図 1-3）で見ると、令和元年では平成 30 年に比べ、40 歳代、50 歳代で「楽になった」のポイントが高くなっている。「苦しくなった」では 20 歳代、60 歳代のポイントが高くなっている。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



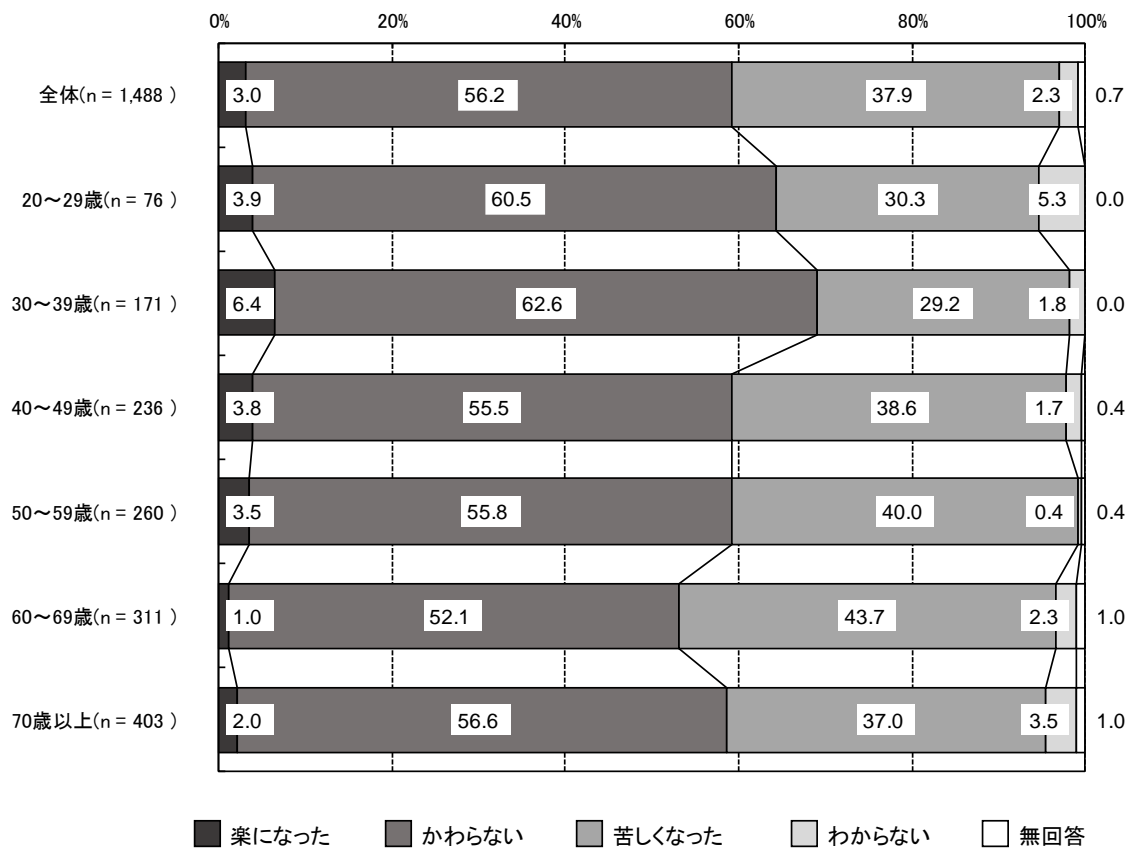
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 57.3%、女性が 55.2%と、男性が女性より 2.1 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



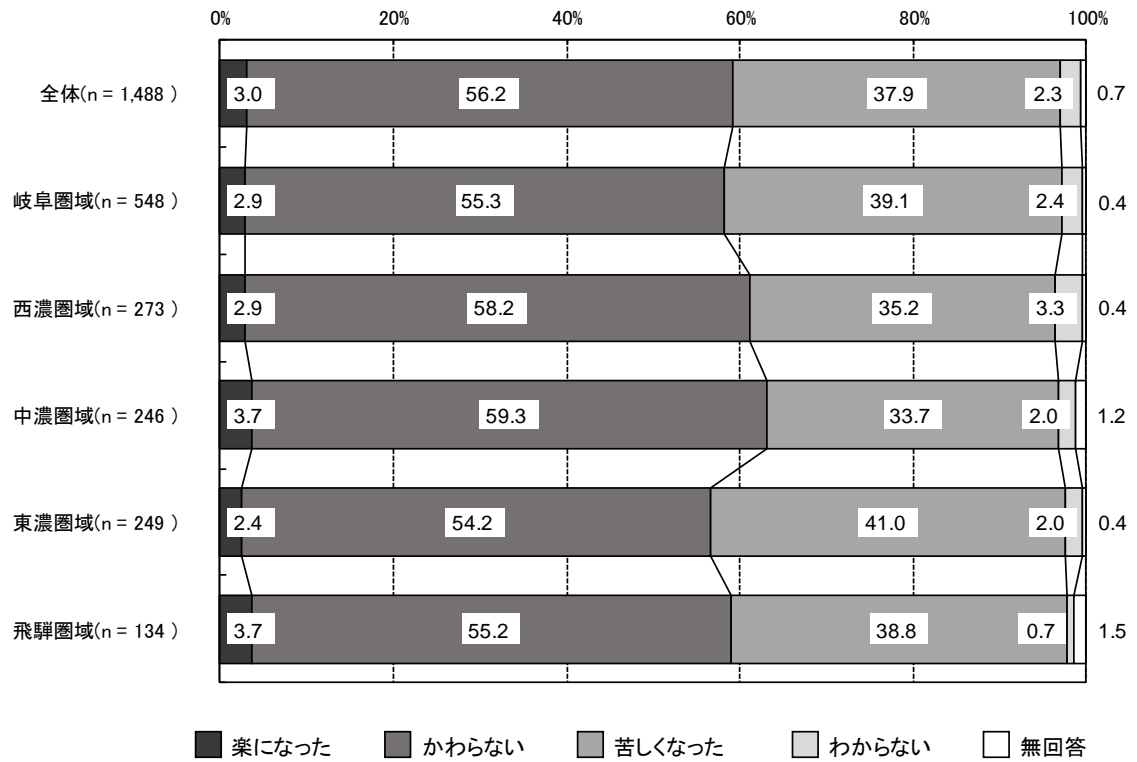
年代別（図 1-5）で見ると、いずれの年代においても「かわらない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 62.6%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、60 歳代が 43.7%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



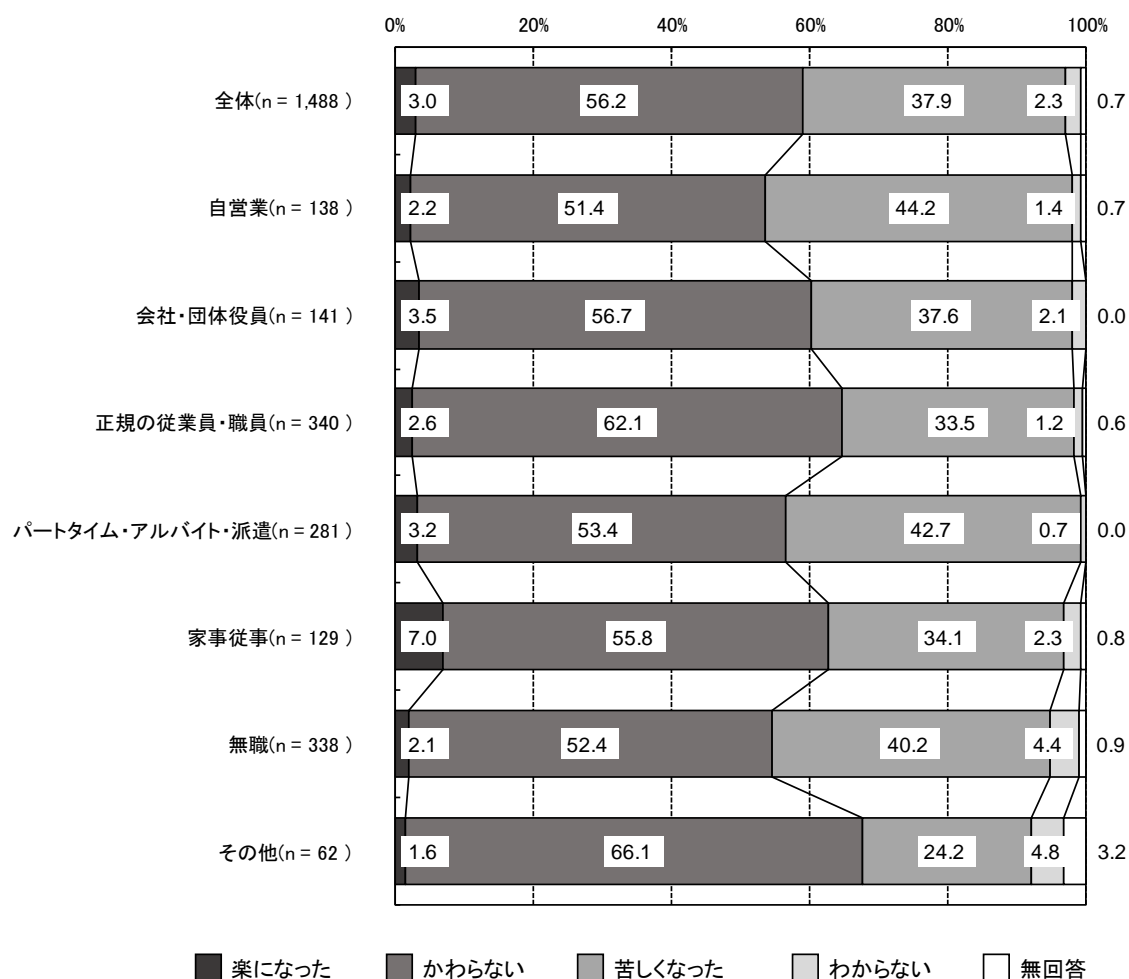
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの圏域においても「かわらない」が最も高く、そのうち中濃圏域が 59.3%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、東濃圏域が 41.0%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】 暮らしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、いずれの職業においても「かわらない」が最も高く、そのうちその他が 66.1%と最も高くなっており、次いで正規の従業員・職員（62.1%）、会社・団体役員（56.7%）の順となっている。「苦しくなった」では自営業が 44.2%と最も高く、次いでパートタイム・アルバイト・派遣（42.7%）、無職（40.2%）の順となっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。